



# ミンガラバー

認定 NPO 法人  
 日本・ミャンマー  
 医療人育成支援協会  
 〒700-0815  
 岡山市北区野田屋町2-4-18  
 TEL: 086-224-0102  
 FAX: 086-221-2554  
 URL: http://www.mjcp.or.jp

## 寄付クリニック 新たに3カ所



### これがミャンマー初の世界遺産

巨大な釣鐘のような、この建造物は何? ミャンマーの大河エーヤワディ川中流域で、7世紀から9世紀にかけて栄えた王国「ピュー」の仏塔の1つ。これはピーという市の外れのスリ・クセトラという所にある。

ほかに発掘の進んだベイタノーとハリンを合わせた3カ所の城塞都市跡が「ピュー古代都市群」として2014年、ミャンマー初の世界遺産に登録された。

(岡田茂理事長撮影)



テップカットの後、嶋田さん(前列左から2番目)は風船を飛ばして祝った(ルビ)

### 世界遺産のまちに産院 ニチニチ製薬寄付

世界遺産「ピュー古代都市群」があるバゴー管区のピー市で4月3日、「北村記念産院クリニック」の開所式があった。三重県伊賀市のニチニチ製薬が寄付、親会社のデイリー社(大阪市西区)の北村守会長の名前から名付けられた。

協会の岡田茂理事長が岡山大学の教授時代、ミャンマーでの肝炎対策事業を同製薬と共同で実施。この縁から同社は毎年120万円ずつ協会に活動資金を寄付している。

開所式にはニチニチ製薬から嶋田貴志さんと五島明子さんが出席。バゴー管区のウインティン首相ら大勢の地元関係者が参加して祝った。

嶋田さんは「岡田理事長との共同研究は終わったが、ミャンマーとまた新しいつながりができてうれしい」と挨拶をした。

新しい産院はミャンマー健康財団が運営するクリニックの敷地内にあり、医師2人と助産師1人が常勤する。

協会の呼びかけに応じてミャンマーへ寄付のクリニックが3カ所、相次いで完成した。贈ったのは会員、高校、会社。これで寄付クリニックは全部で17カ所になった。



華やかな飾りつけや風船で開所を祝ったニチニチ管区

### 会員の荒木さん贈る 住民も協力金

う町に「荒木クリニック」ができ、1月2日に贈呈式があった。

協会の岡山市中区湊、荒木富美子さんからの寄金をもとに、それに地域の人も協力金を出し合った。新しいクリニックは2階建てで、住民の期待は大きく、約300人が集まって開所を祝った。

荒木さんは初めてミャンマーを訪れた時に、この国の人々の温かさややさしさに触れて感動。今回が8回目の訪問だった。

「何度もミャンマーにきているうちにミャンマーが好きになりました。人々が健康で幸せになる助けになればうれしい」と開所式で挨拶。荒木さんや日本からの参加者は文房具などを持参、町の小学校に贈った。

式後のクリニック診療開始のときには大勢の行列ができ、この日だけで約90人が受診した。糖尿病や高血圧の患者が多かった。

### 岡山学芸館の生徒ら募金



産院前で地元婦人会の人たちと記念撮影の生徒(タケタ地区)

1月5日、贈呈式があったのは「岡山学芸館高校産院クリニック」。ヤンゴン郊外の約5万人が住むタケタ地区にある八田治療クリニック内に

設けた産院だ。

岡山市東区の同高校では2016年3月、生徒4人が森健太郎校長と一緒にミャンマーを訪問。観光のほか、協会員らによる寄付クリニックを見学した。岡山市在住の故八田武志さんが寄付した八田クリニックもその1つだった。

生徒たちはこの時の体験からクリニックの寄付を思い立ち、学校側も協力。夏休みや学園祭などで募金活動をした。

タケタ地区では産院がないため、車で約1時間かかるヤンゴンの病院などで出産しなければならなかった。新しい産院では産婦人科医が巡回診療し、助産師2人が常駐する。

贈呈式には同高校の森校長や医療系学部志望の生徒ら11人が出席。式の模様はミャンマーの公共テレビが取材、全国放送された。

# 貴重な経験生かします

## ネピドー総合病院 タンピョウジンさん

ミャンマー政府から岡山大学での研修生に選ばれたことを聞いて、さっそく日本大使館にビザを貰いに行つたが、日本での滞在が3カ月より1日超過していたため、許可がおりませんでした。

ミャンマーの歯科医師2人が協会の招きで、岡山大学歯学部口腔病理学教室で研修を受けた。去年9月から11月まで3カ月間。2人に研修の様や日本印象などについて書いてもらった。

# 最高の国の秘密 少しわかりました

## タウンジー・サオサントウン 総合病院 ノウメイピョウさん

# 口腔病理を研修



①口腔病理学教室の雲塚  
スタッフと一緒に岡山  
大社で。後列右が雲  
教授＝島根県出雲市  
②着物姿のタンピョウ  
ジンさん(左)とノウメイ  
ピョウさん＝岡山市  
後楽園

私たちは2016年9月4日、関西空港に着き、バスで岡山に向かうことになりました。待っている時間にバスの乗車券をなくしていることに気づき、ポケットや袋、リュックサック、歩いてきた道や待合室を探しましたが、見つかりません。バス乗り場近くにいた制服の人に助けを求めると、驚いたことには、彼が乗り場

の箱を開けるとその中から私の切符が出てきたのです。私は嬉しいだけではなく、日本には勝てないな、と思えました。私の日本の第一印象は最高でした。

岡山や周辺の多くの有名な場所を尋ねました。島根県の出雲大社へは教室の全員で訪れ、温泉にも連れてってもらい、羊のパーベキューレストランで昼食をとりました。京都は金閣寺、童安寺、伏見稲荷大社と本当にびっくりするような

素晴らしいものでした。中野啓准教授からも多くの事を学び、私たちが理解できないことがあると分かりやすく説明してくれました。また、いつも笑みを浮かべ、あらゆることで助けて下さった技官の船越和子さんは私の生涯で忘れることのできない人です。

ミャンマーも日本のようになつてほしいと思います。最後になりましたが、この地で勉強することができたのは岡田茂理事長らNPOの皆様のおかげであり、また私たちを受け入れて下さった岡山大学の皆様に感謝します。

た。協会の岡田茂先生に連絡してもらい、手続きは順調に進みました。お陰で岡山へはスムーズに着くことができました。私たちの宿舎は協会事務所がある建物の5階にあり、十分な広さで、必要なものは全てそろつていました。

次の日、岡山大学歯学部6階にある口腔病理学の教室へ行き、勉強を開始。基本的な組織の切り出し、染色から始まって、高度な染色法、DNAの抽出なども行つた。中野啓准教授は私たちを親切に、辛抱強く指導くださった。月曜日と火曜日の夕方には中野先

生による診断病理の講義があり、水曜日と木曜日の夕方は長塚仁教授の講義がありました。教授は、見ているものの実体を見付け出す方法、例えば、見ている細胞が正常かどうか、若もし異常だとすれば、どの様な状況でそのようになったのか、その原因と結果を的確に指摘してくださつた。

日本の良いものを挙げてみます。最新の口腔病理学、紅葉の色の移り変わり、冷やかで気持ちの良い天候、美味しく脂肪の少ない健康的な日本食、ごみの散らかっていない道路、進歩した技術、寝がけ行き届き勤勉で礼儀正しい日本人……。

岡山で出会った皆様、本当に有難うございました。この貴重な経験から、私は人類の幸福・福祉に貢献します。これまで得た経験を皆さんと分かち合います。

ました。次の日、岡山大学歯学部の6階にある口腔病理学の教室へ行き、勉強を開始。

長塚教授と船越さんの計らいで日本の伝統的な着物を着る機会があり、私たちは着物姿で後楽園や岡山城を歩き、記念に沢山の写真を撮りました。

岡山滞在中の3カ月は、のモリタ製作所の工場見学もさせてもらいました。

岡山滞在中の3カ月は、口腔病理の勉強ばかりではなく、日本の歴史、文化、生活様式、伝統的な食事や服装についても知りました。最高の国の秘密も少しわかりました。

総合病院(モン州)でそれぞれ指導した。岡山大病院口腔外科の水川展吉講師ら3人はタウンジー総合病院で口腔がん検診を行った。

である西日本高速道路工リア・パートナース倶楽部から協会への寄付金の一部を充てた。3月29日には岡田理事長らは、西山理事の寄付で昨年秋にシヤン州の山岳地帯にできた小学校を訪問。在校生40人や近隣の小学生、地元住民ら大勢の歓迎を受け、持参の文房具やおもちゃなどを手渡した。

## 協会だより

### 20人准看護師へ あかね基金3期生

協会理事の西山央子さんが設立した准看護師育成の「あかね基金」を受ける3期生20人の始業式が4月1日、エーヤワディ管区のチャウンゴン市であった。半年間の研修後、准看護師になる。

1、2期生から5人ずつがお祝いにかけて、協会からは岡田理事長や岡山協立病院医師豊田博さん夫妻と孫ら7人が参加した。式的費用は、高速道路サービスエリアのテナント団体

### 病院備品ヤンゴンへ

岡山県赤磐市から旧市民病院のベッドや車いす、移動式トイレなど約200点の寄贈を受け、ヤンゴンでボランティア団体が運営する老人健康施設で使ってもらうことにした。

同病院は2年前に廃止されて診療所に。備品の中には十分に使えるものがあり、4月7日、現地で開催式を行い、感謝状を受け取った。

## 医療支援に30人 岡山大を中心に

岡山大学病院を中心に医師、看護師ら約30人が1月にミャンマーを訪れて医学研究大会へ出席し、手術指導などを行った。

医学研究大会では、子宮がんの診断をテーマに柳井広之・岡山大病院教授が話した。またシンポジウムでは、生活習慣病について和田淳・岡山大教授、医療スタッフの教育について千堂年昭・同教授が話したり助言したりした。

ヤンゴン、タウンジー(シヤン州)の両総合病院で、岡山大病院形成外科、麻酔科、看護科のグループが手術指導。小野成紀・川崎医大教授らの脳外科グループはヤンゴン総合病院で、笠井裕一・三重大教授ら整形外科グループはモラミヤイン

相次いで完成した寄付クリニックの1つ、北村記念産院クリニックの場所がミャンマー初の世界遺産「ピュー古代都市群」のある町と聞いて、「バガン遺跡」のことを思い出しました。協会発足前年の2005年にミャンマーを訪れた時、バガンへも足を伸ばしたのです。林立する大小さまざまな寺院やパゴダが落日に染まって、それは幻想的でした。そんな夕景に身を置きながら、アンコールワットとボロブドゥールとともに「世界三大仏跡」と言われるだけのことはあると納得。いずれ、この国で真先にユネスコの世界遺産に登録されるに違いない、と思ったのです。それが今なお未登録なのはなぜか。この付近で起きた1975年の大地震で、寺院の壁やパゴダの頂上部などがあちこちで崩壊。修復は瓦礫を再利用し元通りにすべきなのに、この時はセメントで塗り固めたり、寺院の中にはもともとなかった塔を付け加えたりと、杜撰な工事をしたのが理由だそうです。去年8月にまた地震があり、遺跡に被害がでましたが、今度はユネスコの専門家が現地入りして修理方法を指導中です。順調に修復が進めばきっと世界遺産になるでしょう。(西崎)

## 編集後記